

琉球大学学長記者懇談会

2025年7月24日

国際シンポジウム「沖縄におけるフェミニズムとインターセクショナルリティ」開催報告

開催期間：2025年7月10日～12日、9:30-17:30

場 所：沖縄科学技術大学大学院（OIST）

開催形式：ハイブリッド

主催・運営：琉大レインボー& OIST インターセクショナル・フェミニスト

・「琉大レインボー」代表

琉球大学 理学部4年次 キョ ルイラン;

琉球大学理学研究科博士課程修了、OIST ポストドク研究員、現在ハワイ大学ポストドク研究員 Maria Santos

・「琉大レインボー」顧問/「ジェンダー学とインターセクショナルリティ」担当教員/シンポジウム企画運営アドバイザー

琉球大学 島嶼地域科学研究所 准教授 宜野座綾乃;

共催・後援：琉球大学ヒューマンライツセンター、ハラスメント相談支援センター、ジェンダー協働推進室；Be the Change Okinawa

「ジェンダー学とインターセクショナルリティ」受講生/グループプロジェクトリーダー：

・国際地域創造学部 3年次 福元和音

報告タイトル「沖縄における性別役割分業に対する大学生の意識調査」

・人文社会学部 1年次 福地麻咲季

報告タイトル「沖縄における軍隊の性暴力：2024年の事件の考察を通じて」

インターセクショナルリティ(交差性):ジェンダー学の視点から生まれた考え方で、性別だけでなく、人種、階級、年齢、障がいの有無など、さまざまな立場や違いが重なり合って、人の経験を形成すること。複数の違いが重なって生じる不平等や特権に目を向ける視点。

例：女性でかつ移民である、あるいは障がいがあるといった場合、それぞれの要素が単独ではなく交差して（インターセクトして）不平等な状況を生み出すことがある。一方で、たとえば、男性で多数派の人種、経済的にも恵まれている人は、社会的に有利な立場にある人にとっては特権となることもある。

概要報告 宜野座：今回の FIO (Feminism and Intersectionality in Okinawa) シンポジウムは、他の国際シンポジウムにはあまり見られない、以下の3つの顕著な特徴を持っています。

大学間、分野間、地域と大学を結ぶ取り組み：文系・理系の垣根を越えて、大学生や若手研究者が沖縄という自らが学び・暮らす土地に根差した課題について主体的に向き合い、その声を発信したことも、本シンポジウムの重要な意義です。学問的専門性に閉じることなく、「今ここ」に生きる場所から問いを立て、地域社会とともに学び合う場が生まれました。

多様性、多言語、公平性、包摂性：特に印象的だったのは、LGBTQ やフェミニズムといった周縁化されがちなテーマに日常的に関心を持つ若者たちが、沖縄における構造的抑圧や差別と自身の経験との共通点を見出し、深く学ぼうとする姿勢です。短期間の滞在であっても、彼らがこの土地の歴史や課題に真摯に向き合い、言語の壁や資金的制約を乗り越えながら、お互いに支え合い、講演者に自ら賛同を求める姿には、知的探究心と社会的責任を結びつけた知のあり方が示されていたと思います。このような分野横断的・多国籍・多言語的な若者たちによる自主的な試みはまだ多くなく、FIO は、その先駆的なモデルとなる重要なイニシアティブの一つであるかもしれません。

学部研究と国際シンポジウムでの英語報告の機会：今回、私の講義「ジェンダー学とインターセクショナリティ」を受講した琉球大学の農学部、工学部、国際地域創造学部、人文社会学部、医学部の学生たち（学部1年生から博士課程まで）が、学部横断で協働しながらプロジェクトのテーマを設定し、調査・検証を行い、それを英語で発表できたことは、琉大ならではの学びの成果だと感じています。英語を母語としない学生たちが、このような国際的な場で主体的に報告を行う姿は、沖縄の地域性と国際性が共存する学術環境の恵みだと感じています。

琉球大学は、県内唯一の総合大学として、理系・文系を横断する学びと、地域課題への関心を育む教育の場であり続けることが求められています。今回の取り組みが、その一助となれば幸いです。

主催「琉大レインボー」代表 キョルイラン

感想：私たち「琉大レインボー」は、学部生2名と交換留学生1名の3名で立ち上がった多様なメンバー構成のサークルです。今年はさらに大きな挑戦として、「沖縄におけるフェミニズムとインターセクショナリティ」を開催しました。このイベントは、沖縄の学生、研究者、アーティスト、地域の皆様が分野や立場を越えて出会い、交流し、共に学び合うことを目的に開催されました。琉大レインボーのメンバーで、理学部研究科の博士客員研究員である Maria

Santos(Duda)さんを中心に、初めての大規模なシンポジウム運営にあたり、最初は不安を感じていましたが、多くの方々が関心を持っていただき、とても励みになりました。講演者や発表者の方々から多くの学びを得られたことに加えて参加者のみなさんが積極的に質問や意見交換をしてくださりました。参加者同士の間でも活発な意見交換や、新たなつながりが生まれるなど、深い交流が促進されました。一方で、情報発信や広報にはまだ課題があり、「誰も取り残さない」伝え方を工夫したいと考えています。将来的には、地域の学校や市民団体とも連携し、沖縄から多様性を尊重する文化を広げていきたいと強く思います。

報告を終えた感想

報告タイトル「沖縄の性別役割分業グループ」

報告者：国際地域創造学部 3年次 福元和音（リーダー）

私たちは、「沖縄における性別役割分担に対する大学生の意識調査」をテーマで報告しました。プロジェクトのきっかけとなったのは、沖縄における家庭内の性別分業に違和感を持っていたことや、大学生と既婚世代の意識の違いを比較したいと思ったことです。調査の結果、大学生の多くは男女平等の意識が高く、性別による役割分担を否定する学生がほとんどでした。一方で、理想の家庭像を尋ねると、どの世代にも女性に伝統的役割を期待する傾向が見られました。これは、沖縄の伝統的価値観や、女性の賃金格差などが背景にあると考えられますが、時間の都合で、十分に深掘りをすることはできませんでした。英語での発表は緊張しましたが、OISTという国際的な場で発表し、さまざまな参加者と交流できたことはとても刺激的で、貴重な経験となりました。

報告を終えた感想

報告タイトル「沖縄における軍隊の性暴力：2024年の事件の考察を通じて」

報告者：人文社会学部 1年次 福地麻咲季（リーダー）

私たちは、沖縄における米軍の性暴力をテーマに発表しました。このプロジェクトを通して、米軍による性暴力事件には他の性暴力と異なる特殊性があることがわかりました。単に知識を身につけるだけでなく、問題の全体像を把握することで、今後軍事性暴力について考えるための思考力を身につけることができました。また、シンポジウムでは、会場から多角的な視点による質問をいただき、自分たちの考えを深めるきっかけにもなりました。今後も性暴力の問題を「個人の問題」ではなく「社会の問題」として捉え、声をあげることや学び続ける姿勢を大切にしていきたいとしたいと思います。

シンポジウム「沖縄におけるフェミニズム とインターセクショナリティ」開催報告 Feminism and Intersectionality in Okinawa

学生サークル「琉大レインボー」：理学部 4 年次 キョ ルイラン
共通科目「ジェンダー学とインターセクショナリティ」学生代表：
国際地域創造学部 3 年次 福元和音、人文社会学部 1 年次 福地麻咲季
サークル顧問/共通科目担当：島嶼地域科学研究所 宜野座綾乃

概要

- 開催期間：2025年7月10日～12日
9:30-17:30
- 場所：沖縄科学技術大学大学院
- 開催形式：ハイブリッド
- 主催・運営：琉大レインボー& OISTインターセクショナル・フェミニスト
- アドバイジング：琉球大学 宜野座綾乃
- 共催・後援：琉球大学ヒューマンライツセンター、ハラスメント相談支援センター、ジェンダー協働推進室；
Be the Change Okinawa

Symposium on
FEMINISM AND INTERSECTIONALITY IN OKINAWA

A platform for meaningful exchange between students, academics, artists, and community members from Okinawa.

Grounded in diversity, equity, and inclusion, this event will highlight emerging local and transoceanic networks shaped by Okinawan ways of knowing, relationships, and connections to the islands and oceans.

Join us in exploring intersectional approaches to social justice, identity, and resilience from Okinawa to the world.

Plenary dialogues with transoceanic voices, interactive workshops and posters

10-12 JULY
@ OIST, OKINAWA

Sponsored by
The University of Ryukyus,
OIST C-Hub

Organized by
Ryudai Rainbow &
Intersectional Feminists of OIST

Program
Registration
Abstract submission



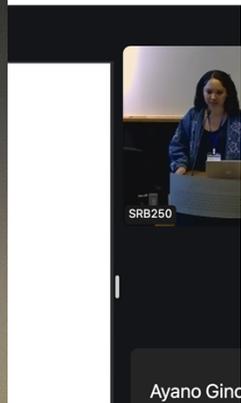
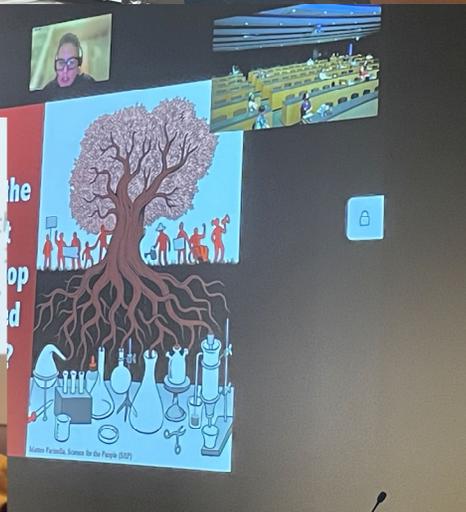
構成・スケジュール

- 基調講演 4 (8人)
- ワークショップ 2 (6人)
- プレゼンテーション 15 (23人)
- ポスターセッション 4



JULY 10		JULY 11		JULY 12	
9:00 - 9:30 hrs Opening and Land Acknowledgement Shinako Oyakawa	B250 Sydney Brenner Theater	9:00 - 11:30 hrs Plenary 1 Carrying on Mr. Allen's Legacy-For the Children of Vietnam Eiko Ginoza	B250 Sydney Brenner Theater	9:00 - 11:30 hrs Plenary 3 Art at the Intersections: Painting Uchinanchu Queer Crip Futures Laura Kina	B250 Sydney Brenner Theater
9:30 - 11:30 hrs Workshop 1 Building collectives of knowledge production for resistance and liberation Sig Giordano & Risako Sakai	B250 Sydney Brenner Theater	"Women's work:" Ryukyuan Women in the U.S. Academy Alexyss (Lex) McClellan-Ufugusuku Moderator: Ayano Ginoza		Okinawa, Black Culture, and the Future of Amerasians: Conversations on Cultural Appropriation and Belonging Ai Oyafuso Moderator: Victor Kinjo	
13:00 to 14:50 hrs Presentations Burden of COVID-19 Pandemic on Women in Okinawa under the Seventh-Wave Sumiko Ogawa	B250 Sydney Brenner Theater	13:00 to 14:50 hrs Presentations UN Committee on the Elimination of Discrimination Against Women Addresses Sexual Violence by U.S. Military Personnel in Okinawa Yuko Oyakawa	B250 Sydney Brenner Theater	13:00 to 14:50 hrs Presentations "O Silêncio É Muito Eloquent" (Talk and Short Film) Thais Omine	B250 Sydney Brenner Theater
LactaCare: A Breastfeeding Support App Including the LGBTQIA+ Population Ingrid Ariel Maria da Silva Cintra		Mabui: Creation Notebook and the "Okinawan Problem" Lucia Yumiko Kakazu (Talk and Short Film)		Writings and re-writings of femininity: heterotopias and politics of feeling (Talk and Short Film) Lidia Lidia Ganhito, Mariana Pougy, Pacor	
Double Silenced: Okinawan Women in the History of Immigration to Brazil Karina Satomi Matsumoto		Flowers and Typhoons: Asian-Brazilian intersectional activism and encounters between diasporic's Uchinanchu, Ainu and Koreans Lais Miwa Higa		Cine-poetics of Archipelagic Relations: Creative Praxis Toward Decolonization and Deimperialization (Talk and Short Film) Anita Wen-Shin Chang	
Lily Corps and Continental Brides: Comparing Media Representations of Himeyuri and Hanayome in Wartime Okinawa and Manchuria Lin Meng Walsh		Bodies, Borders, and Bases: Sexual Politics and U.S. Imperialism in Okinawa and Ciudad Juárez Sofia Huerta Nunes		A Survey on University Students' Perceptions of Gendered Division of Labor in Okinawa (Japanese) Kazune Fukumoto, Mikuri Hashimoto, Manamoto Sakaguchi, Hiromi Yamazato	
Invisible words (Talk & Multimedia Installation) Mateus Rezende de Oliveira		Recuperation or Abjection? Female Survivors in Medoruma Shun's War Stories Davinder Bhowmik		The Characteristics of Military Sexual Violence and Its Manifestation in Okinawa (Japanese) Asaki Fukuchi, Yu Sakamaki, Yakumo Maruoka	
15:00 to 15:30 hrs Posters & coffee break	B250 Sydney Brenner Theater Lounge	15:00 to 15:30 hrs Posters & coffee break	B250 Sydney Brenner Theater Lounge	15:00 to 15:30 hrs Posters & coffee break	B250 Sydney Brenner Theater Lounge
15:30 to 17:30 hrs Workshop 2 Decoloniality and the Researcher: Accountability, Coalitions, and Transformation Shannon Welch, Tamy Gushiken, & Mateus (Machi) R Oliveira	Conference Meeting Room 2	15:30 - 17:30 hrs Plenary 2 Why does Okinawa have so many cases of sexual violence committed by U.S. soldiers? Suzuyo Takazato	B250 Sydney Brenner Theater	15:30 - 17:30 hrs Plenary 4 Bridging homeland and Diaspora: The Challenges of Shimanchu Organizing between Okinawa and Hawai'i Chihiro Komine & Sam Ikehara Moderator: Kinuko Maehara Yamazato	B250 Sydney Brenner Theater
Workshop 3 今日も元気に病氣中!! ; Neurodiversity and support Natsumi Nakamura & Kenta Nakamura	Conference Meeting Room 3	Hajichi and Discrimination in Immigrant Countries Harumi Miyagi			

基調講演



プレゼンテーション



Okinawa - the Vulnerabilities

Child poor rate	GDP per capita	Non-fulltime employees rate	Single mother incidence rate	School expense subsidies rate
Okinawa 29.9% Worst 1	Okinawa 2,166,000 JPY Worst 1	Okinawa 43.1% Worst 1	Okinawa 4.88% Worst 1	Okinawa 24.2% Worst 2
Japan 13.5% (H30)	Japan 3,190,000 JPY	Japan 38.2%	Japan 2.47%	Japan 14.53%



ポスターセッション



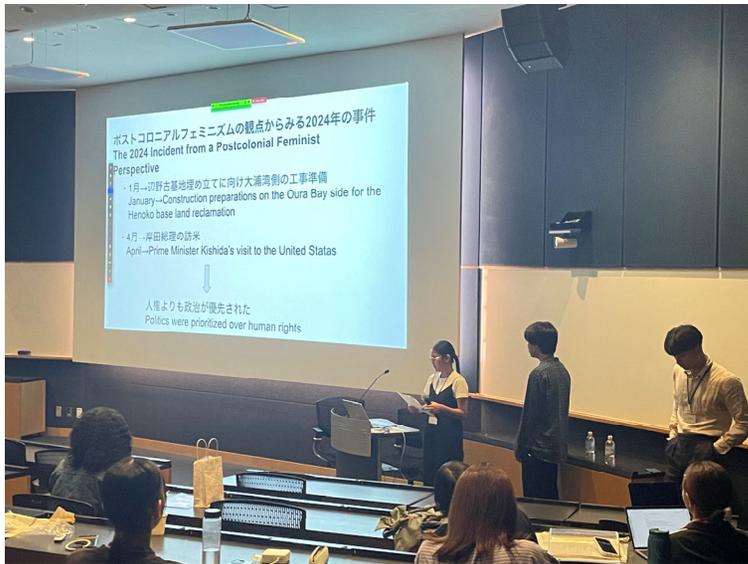
Undergraduate research

「ジェンダー学とインターセクショナルリ ティ」学生報告



「沖縄における軍隊の性暴力： 2024年の事件の考察を通じて」

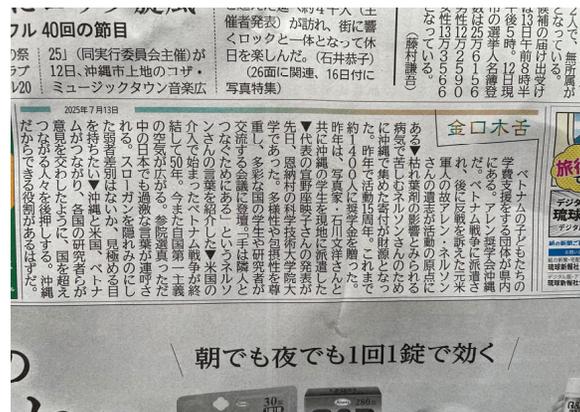
「沖縄における性別役割分業 に対する大学生の意識調査」



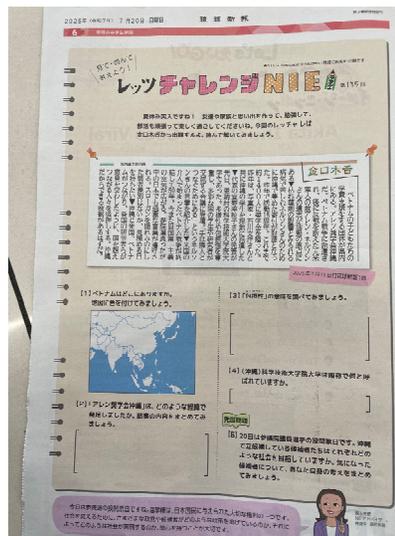
メディア掲載



沖縄タイムス 2025年7月12日



琉球新報 2025年7月13日



琉球新報 2025年7月20日



沖縄タイムス 2025年7月20日

特徴と成果

- **大学間、分野間、地域と大学を結ぶ取り組み**

- 文系・理系の垣根を越えて学部生・大学院生が協働で、自らが学び・暮らす沖縄の課題に主体的に向き合い、学問的専門性に閉じず、「今ここ」の場所から問いを立てる

- **多様性、多言語、公平性、包摂性**

- 言語・資金・分野の壁を越えて協働した、多国籍・多分野の若者たちによるLGBTQやフェミニズムを含む社会課題への主体的な実践。

- **学部研究と国際シンポジウムでの英語報告の機会**

- 多学部・多階層の学生が協働し、英語で国際発表を行う中で、沖縄の地域性と国際性が共存する学術環境を体現。

ご協力・ご支援いただいた皆様に、
心より感謝申し上げます。